

一般質問



地域づくりの基本的考えは 職員の労務管理について

田口 喜義



めっきり少なくなった工事現場

市長の政治姿勢について

質問 市長は仙北市の地域づくりの基本的な考え方は開発型成長なのか、持続的発展を目指していくのか。

また一極集中で都市機能を高めるべきなのか、個性ある多極分散型の地域づくりするのか。

財政は税の移譲は少なく補助金の削減、地方交付税や臨時財政対策債の大巾な削減などで、収支のバランスをとるために地方債の発行と基金のすべてと言っているほど取り

くずした。今後の財政運営について伺う。

市長 この合併は財政的な問題で合併をせざるを得ないとの判断であった。規模を大きくすることによって個々の小さい行政自治を効率的に行える。具体的には組織、機構のスリム化、人員の削減など行政として公共施設の効率的な配置、使用の仕方など数多くある。地域がもっている個性や良さをお互いに活用出来ることになる。

一極集中が多極分散については全市が底上げ出来るよう

な多極分散で行く。

財政運営については歳入の減少などで九億円の基金を取りくずして収支のバランスを計ったが、このまま続けることは出来ない。

合併によって節約出来るところは早く効果が出るよう統廃合や、施設の共有化、不要な資産の売却、貸付をする。

質問 市民の声が届かないと聞くが市長はどう対応するのか。

市長 地域の座談会などに出るようになっている。

角館庁舎は火曜日、西木庁舎は木曜日で地域センターを通じて地域の問題を聞くようにしている。

職員の労務管理について

質問 今年度に入って田沢湖庁舎のタイムレコーダーの廃止の理由は何か。また時間外勤務はどうなっているか。

市長 西木、角館はタイムレコーダーは使用していなかった。統一する意味で廃止をした。自己管理、自主的な管理にするべきだと思っている。

時間外勤務については、時間外の命令があつてするもので自主的な残業はない。

質問 田沢湖庁舎の観光課の廃止の理由は何か。

市長 本課で事実を把握していない事が非常に多くあり、組織のあり方として指揮、命令が複数あることは、一つのところに行かない場合がある。一元化することにより、統一された行政運営ができ、弊害がなくなる。地域の観光に関わる事業、業務は観光班で対応できる。

都市計画税について

質問 角館町が昭和四十七年から現在に引き継がれ、都市計画事業に用する貴重な財源で、今年度も四千四百万円を計上しているが、廃止する方向であるならば事業についても見直しをするのか。

市長 この税は合併協議の中で廃止の方向であった。目的税であるが区域全体でその税を使うのが難しい。十九年度からこの税を廃止に向けて準備しているので、今年中にいろいろの整備をしなければならぬ。

質問 平成十八年度の冬期交通対策については万全か。

市長 建設部を中心に検討を開始した。